

足羽川における河道改修効果及び  
水位計算について

平成17年10月28日

-1-

1. H17.4.14 新聞報道について

-2-

読売新聞  
平成17年4月14日(木)

第28回九頭竜川流域委員会 資料-7 P2より

増水対策

# 足羽川改修で可能

県試算 7月豪雨並みならダム不要

福井豪雨並みの増水に備え、県は足羽川に備え、同県が河川整備計画の原案にダム建設を盛り込むことを決めた。足羽川については、県は毎秒2400トンに達し、県や国は被災後、改修を進めるが、対応できるのは1800トンまで。バム建設が必要としている。県や国は改修後の最大流量を算出する際、九頭竜川や日野川流域にも強い雨が降り、水位が上がる場合を想定した。

ところが、豪雨時には九頭竜川や日野川で増水がほとんどなかったため、県がシミュレーションしたと改修後の足羽川に毎秒2400トンが流れても、危険水位に達しないことが判明。改修後の足羽川が1メートル増水しても、危険水位は約0.5メートルを超えるが、堤防頂上までは0.5メートル以上余裕があるという。

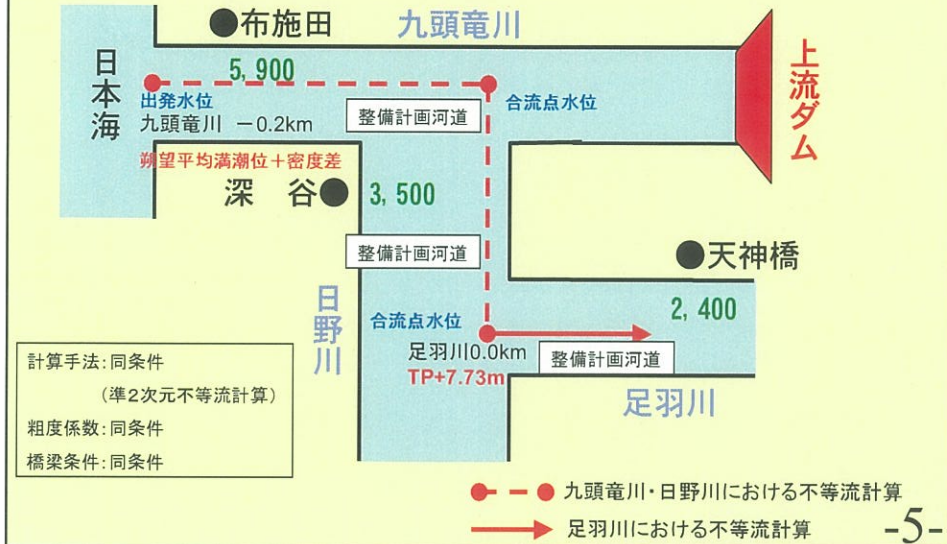
住民への説明資料にはこう記述はなく、同省足羽川ダム工事事務所は「雨の降り方で他の川が増水する可能性は十分にあり、対策が必要」としている。

同省と県は、下流で合流する日野川なども増水した場合の水位を計算し、足羽川ダムの必要性を検討。同ダムについては14日か

## 2. 河道改修効果における水位計算

## 第25回九頭竜川流域委員会 資料-1における計算条件

(福井豪雨の場合の河道改修効果の一計算)

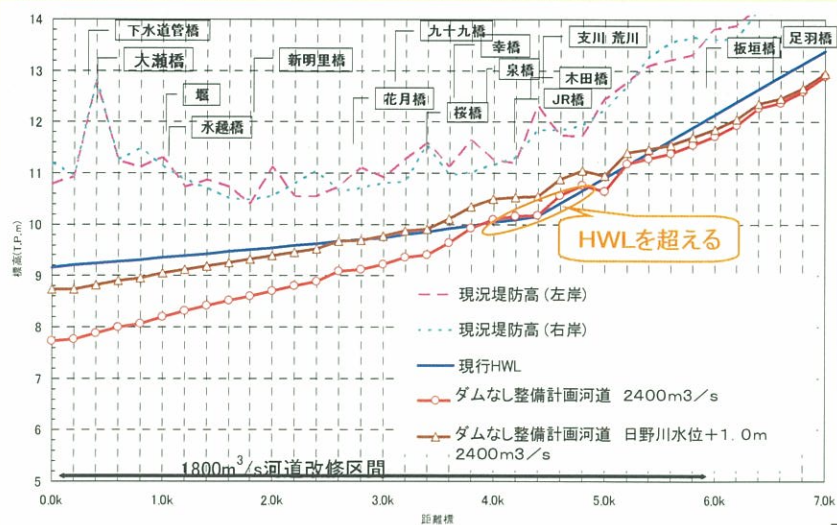


-5-

## 第25回九頭竜川流域委員会 資料-1 P19より

### ①河床掘削による効果

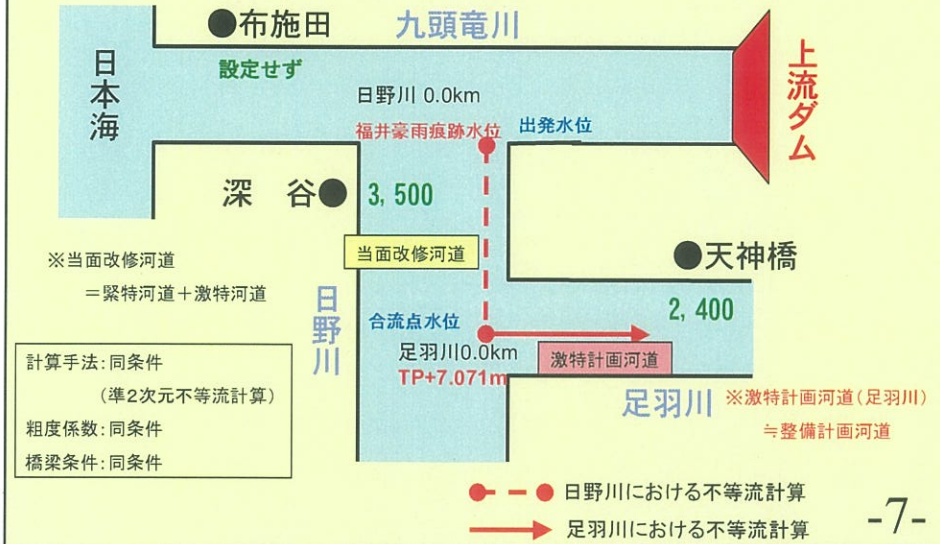
### (2) 足羽川整備後の水位 (福井豪雨時の場合)



-6-

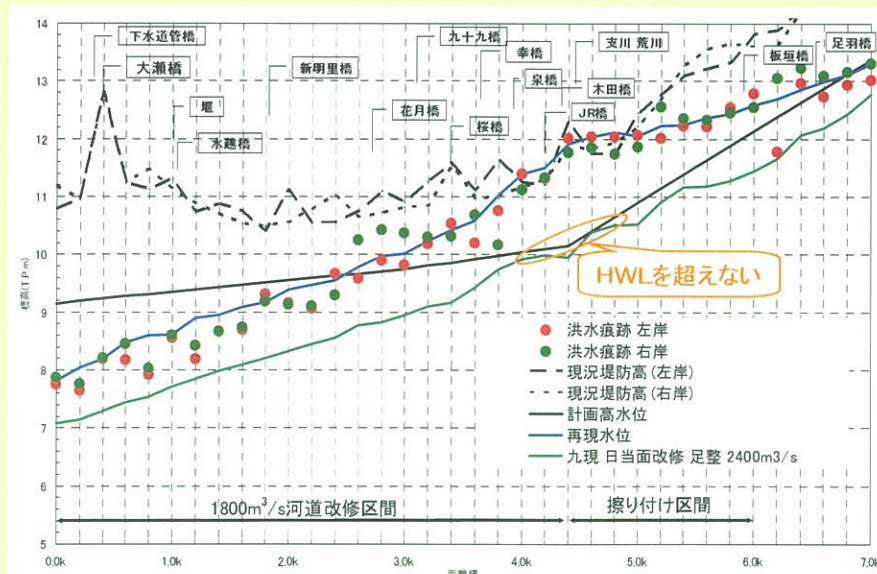
# 足羽川における河道改修計画について説明資料

(激甚災害特別緊急事業等対応)



-7-

第28回九頭竜川流域委員会 資料-7 P4より



-8-

### 3. 水位計算における基本的考え方

-9-

第28回九頭竜川流域委員会 資料-7 P5より

	第25回九頭竜川流域委員会(河川整備計画対応)	足羽川における河道改修計画について説明資料(激甚災害特別緊急事業対応)
今回の水位計算の基本的考え方	九頭竜川・日野川・足羽川で河川整備計画の河道改修実施後に福井豪雨規模の出水が発生した場合の足羽川の水位について計算	日野川・足羽川で当面改修実施後(激特+緊特完成)に福井豪雨と同じ出水が発生した場合の足羽川の水位について計算
事業の考え方	河川整備計画目標に対して不確実な各種条件を考慮しても被害が生じないようにすることを目指す。	再度災害防止の観点から福井豪雨と全く同じ洪水が再度発生しても被害が生じないようにすることを目指す。

事業の考え方の差より、計算出発水位、3川合流時差考慮、氾濫流戻し等の計算条件が異なる。

-10-